

年頭所感

2008年1月4日

株式会社 トクヤマ

社長 中原 茂明

1. 三ヵ年計画の最終年度となる今年度も、昨年に引き続き計画を上回る見通しであり、大変喜ばしく思う。今年度も原燃料を中心とした購入品の高騰とそれに伴う製品価格への転嫁に終始した一年であった。この傾向は今しばらく続くと予想され、来年度以降は更に大幅なコスト・アップが懸念される。今後の世界経済の動きは予断を許さず、これまで日本経済を支えてきた様々なスキームが変わる恐れがあり、注意深く見守る必要があるだろう。
2. 「企業価値の更なる向上」を目標に、当社の事業を「攻める・守る・切り拓く」に仕分けし、「量・質・機能・インフラの成長」を謳った現三ヵ年計画も、計画通りに進展できたと評価している。今年は創立百周年を見据えた第一ステップとなる新三ヵ年計画に踏み出すことになる。内部統制活動、新情報システムの構築、更には CSR 活動や製造所内至る所での設備投資等々、多忙を極める年になると思われるが、一人ひとりの持てる力を最大限に発揮し乗り越えていきたい。その際一番の心配は、皆の心身両面の健康問題であり、家族の為にも自分を大切にし、自分の健康は自分で管理し、決して無理や自分を酷使しないようにして欲しい。
3. 世界経済の動きは我々が想像する以上のスピードで走っており、またその変化も目を見張るばかりである。全グループ員が常に神経を研ぎ澄ませ、情勢変化を機敏に捉え、流れに乗り遅れることなく、また流れの変調を見極めたら、軌道修正にも恐れることなく果敢に取り組んで欲しい。
4. 今年は創立 90 周年である。現三ヵ年計画のスタート時、計画を達成したら全グループ員でお祝いしようと約束をした。約束通り計画実現に努力してくれた従業員、グループ各社、支えてくれた家族の方々、既に会社を離れた先輩諸氏、トクヤマの事業運営を理解して頂いた地域の方々と共に祝い、私共の感謝の気持ちを表す行事にしたいと願っている。
5. 企業の歩みは立ち止まる事は許されず、90 周年は次の百周年の節目に過ぎない。百周年のトクヤマグループの姿は、輸出も含めた海外売上高比率が 30%以上のグローバル企業としての存在である。我々の得意とする「素材・部材」の世界でグローバルに通用する事業を生み出さねばならず、誰もが出来る汎用品の世界では当社の持ち味は生かされない。ニッチな世界で No.1 を狙うべきである。20 数年前に始めた多結晶シリコン事業も、太陽電池用途として脚光を浴びたからこそ、世の中に知れわたる存在になったが、それまではニッチな事業であった。グローバル・ニッチ事業を数多く抱える企業として世の中に認められるためには「当社固有の技術」と言わ

れるものに更に磨きをかけ、グローバルな人財に溢れた企業に変わらなければならない。

6. マザー・ファクトリーとしての徳山製造所は大切にしなければいけないが、ここに固執すると成長は望めない。戦いの場を世界に求めて行く必要がある。明治維新を成し遂げた戊辰戦争から今年で140年になる。長州を飛び出し世界に雄飛しない限り、この目標には到達し得ない。
7. “グローバル企業”を目指す道のりの中で、現在の事業構造が大きく変わってしまうかもしれないが、この選択も企業価値の向上を目指すためには避けて通れず、全てのタブーを捨て去り、ここまでの90年間、先輩達が成し遂げて来たチャレンジングな変革の道を我々もたどらねばならない。
8. これらの茨の道を乗り越えるのも、我々の英知と決断以外にはない。トクヤマグループ全員の力を結集し、目標に向けて邁進すると同時に、これまで同様、「安全」に常に気を配り、「危機意識」を失わず、「緊張感」を持って、これらの障壁に立ち向かって行く事を全員の合言葉に、前進していきたいと願っている。

以上